

あなたへの手紙

~love letter~

清瀬ちこ



あたたかい雨

あたたかい雨が、桃の木にはらはらと落ちています。
お元気ですか。風邪など引いてませんか。

先日、久しぶりにあなたの笑顔を見ました。
きらきらと輝く瞳は、あなたそのものでした。

低くて落ち着いた声を聴いていると、私の中に眠っていた感情が疼いてしまいました。
ゆらゆらと、まるでリズムを刻むようなお喋りは、魔法のようでした。

どうやらあなたを、恋愛対象に視ている私です。

そんな気持ちに気づいてしまった私は、
あなたの眼を見ることができません。
そして、あなたの声がすると、耳を澄ましてしまうのです。

どうか気づいて下さい、私に。
どうか気づいて下さい、私は女です。
どうか気づいて下さい、私の想いに。

愛を形に

桜の蕾が色づき始めたようです。
こんにちは。はじめてのお便りです。

あなたとの出逢いは、三年前でした。
なぜか、その声に聞き覚えがあるような気がして振り向いた私。
「いい歳をして、故郷になんの恩返しもできていない……」
そのとき、そんなことをいったあなたでした。
少し、しゃがれた声のあなたが、とても印象的だったのです。

あれから月日が流れ、私は変わりました。
想いを形にするということを考えるようになったのです。
見ず知らずの、知り合いともいえない間柄ではありますが、
あなたの発した言葉が私の中に息づいたのです。

そして、勇気を出して、やっと伝えようと思います。
しかし、会って伝えるには歳をとり過ぎました。

あなたが大好きです。できることなら、愛しあいたい。

これ以上の言葉は思いつかないのです。
どうか、この真心をお汲み取り下さい。

母からの小包

春の日差しも麗らかに、道端の小さな命も元気に動きだしましたこのごろ。
いかがお過ごしですか。

いつも、故郷の品をいろいろと送ってくれて、ありがとう。
懐かしい物に、懐かしい味は、自然に体に溶けていくようです。
お陰さまで、家族みんなが元気に過ごせています。

膝の痛みはどうか。悪いところ、増えていませんか。
何事も、無理をせずに、ほどほどに。
そして、笑っていて下さい。

次回、帰省する時には、好きそうなものを買って帰ります。
では、逢える日まで元気でいて下さい。また、連絡します。

あなたの娘より、愛をこめて。

さくら、開かれて

あたたかな風に桜の花が開かれていく様子は、少し恥ずかしげにも見えますね。
お元気ですか。お仕事、忙しいですか。

多忙なあなただから、
この季節の変わり目に体調を崩していないか、少し心配しています。

あなたを想うとき、私の心は嫉妬で胸が締め付けられています。
なぜなら、その才能はあなただけのもので、私には無いものだからです。

あなたを想うとき、私の心は華やいでいます。
なぜなら、その仕事ぶりが見事なので、心から尊敬しているのです。

あなたを想うとき、私の心は寂しさでいっぱいになります。
なぜなら、今、あなたと一緒に居ないという現実、気づいてしまうからなのです。

そして、あなたを想うとき.....。
こんなにも、愛したいという想いを素直に伝えたいこと。
ただ、めぐり逢えたことに感謝していることを、私は実感するのです。

温もり

あなたが笑う春炬燵に、今日、ひとりで座って考えました。

改めて、手紙を書くのは照れるけど、
勇気をだして、伝えてみます。

出逢ってから数年。
どうしても生活に追われて、
なかなか、気づかなかった。

あなたが、日頃、考えること。
すること、話すこと。
そのすべての中に、あなたの誠実さや優しさを感じます。

いつも、ごめんなさい。
そして、ありがとう。

あなたの、すべてを受け止めて生きていきたい。
愛しています。
ずっと、ずっと、そばにいてください。



夏のはじまり

太陽が眩しく感じられる様になりましたね。

おはようございます。

こちらへ引っ越してきて、

まだ、新しい生活が始まったばかりのころです。

改札口で定期入れを拾って下さったのが切っ掛けで、

挨拶をするようになりました。

ただ拾って渡してくれただけではなく、

さり気なく汚れを払ってくれたことが、とても印象に残っています。

あなたの、そのときのお気遣いが、

なぜか、ずっと忘れられませんでした。

毎朝、お見かけするのが楽しくなって、

たまに、お会い出来ない日があれば、ちょっと寂しく感じたり。

これが、恋に落ちた人の一日の始まりなのでしょうか。

よかったら、お友達になってください。

笑いかけの向日葵

梅雨空に、パワーウィンドウを閉めていました。

目に止まったのは、花びらが開きかけている向日葵ひとつ。

車の中でひとり、笑みが零れてしまいました。

さっき別れたばかりの、あなたを思い出しました。

さっき見たばかりの、あなたの姿を思い浮かべました。

さっき触れたばかりの、肌の温もりを感じました。

別々の部屋へと向かった私達は、

愛し合っているというのに、どうして、今、一緒にいないのでしょうか。

そんなことを考えている私です。

あなたは、今、何を考えているのでしょうか。

一緒に暮らしませんか。

もう一度

お祭の夜は長く、とても楽しい時間となりました。

久しぶりに会ったあなたは、あの時と同じ笑顔でした。
あんなふうに笑われると、何もかも溢れだしそうでした。

一歩ずつ足を踏み出し、歩いてきたつもりでした。
そのぬくもりも、あの後悔も、すべて呑み込んだつもりでした。

また逢えた嬉しさと、照れている恥ずかしさを、精一杯、隠したつもりです。
できるだけ自然に、明るく笑ったつもりです。

あなたが変わらない仕草、その声、あのころのままでした。
もし、時間を巻き戻せるのなら、もう、二度と後悔をしないと思うのです。

だから、もう一度、一緒に笑いませんか。

HANA-BI

港に浮かんだ花火が美しい夜でした。

賑わう港をあとに手を引かれた私は、
あなたに恋をしてしまいました。

雑踏の中に聞こえてしまいそうな鼓動に、
少女のように頬を染めていました。

そして、あたたかく大きな手が私から離れたとき、
思わず、あなたの胸に飛び込んでしまいました。

重なる鼓動が花火の音で消えると、
やっと、顔を上げることができた私でした。

次にお逢いするのを、待ちわびています。

瞳

日焼けした肌、弾けるような笑顔が、眩しいのです。
その笑顔を、どうか私だけに。

ずっと、あなたの味方でいます。
ずっと、あなただけを見つめています。
そして、ずっと、あなただけを想っています。

あなただけを愛し続けると、その瞳に誓います。



青春の微笑み

街路樹が、すこしづつ色づいてきたこのごろです。

いつもたくさんの人に囲まれて、楽しそうなあなた。

一人になることはないみたい。

こちらからは声をかけることが出来ないの。

この手紙を渡すチャンスはあるのかな。

女神は私に微笑んでくれるのかな。

あなたの隣が私のお気に入りポジション。

だから、あなたのお気に入りの場所へ連れて行って。

目と目があったら、不安と期待をこめて笑いかけるから。

だから、一緒に笑って。

泣いたら、涙を拭いて。

そして、また一緒に笑って歩いていこう。

隣にいて、ずっと、一緒に笑ってくれないかな。

月の涙

黄色い月を頼りにして、あなた星を探しています。

そちらは、居心地がいいですか。

こちらは、いつもあなたを探している毎日です。

番組の途中、突然、真っ黒になったテレビ画面のように、
消えてしまったあなたを、まだ、近くに感じていたいのです。

もっと思い出を作りたいかった。

もっと触れていたかった。

もっと笑いたかった。

もっと喧嘩したかった。

いいたいことは山のようにあるのだけれど……。

一番いいたいのは、もっと一緒にいたかったってということ。

あれから、何年経ったのでしょうか。

離れていても、あなたを想っています。

あなたを見つけやすいように、空に向かって笑顔を作ります。

生まれ変わっても、また出逢えますように……。

夜空に向かって祈り続けます。

熱視線

通学路の銀杏は色づき始め、
爽やかな太陽の光を集めているように見えます。

あなたをはじめて見た瞬間に、周りの景色が変わりました。
いつもの朝なのに。
廊下、階段、教室も。
何もかもが、輝いています。

窓からの校庭は広く、
楠の木は雄々しいのです。

どんな女の子がタイプですか。
どんな音楽を聴いていますか。
日曜には何をしていますか。

聞きたいことはいっぱいあるけど、恥ずかしくて聞けません。
つい、目で追ってしまう私に、気づいて下さい。

あなたに声をかけられたら、私というのです。
勇気を振り絞り、彼女にして下さいと。

だからこの視線に、気づいて早く！

愛おしい人へ

あなたとの長い夜。私は、鬼か妖怪となってしまうかも知れません。

あなたの温もりに、つい、うとうととしていました。

あなたの寝息に気が付いて、そっと口づけました。

あなたは気づかないまま、寝返りました。

私は声を出さないように、そっと泣いています。

あなたは気づかないまま、寝続けています。

こんなにも切ない想いをしている私は、

こんなにもあなたを愛しているのです。

あなたが隣にいるのに、孤独なのです。

こんなに辛い愛を知ったのは、あなたの罪でしょう。

朝が来る前に、消えてしまうあなたです。

愛おしくて、愛おしいから決めました。

愛おしいあなたに、幸福という贈り物を。

さようなら。

母の匂い

空を見上げると、薄い色をした大きな鱗雲が見えています。

元気ですか？

あれからずっと、ひとりでいるのですか。

新しい出逢いはありましたか。

思いつめたあなたの姿、今でも目に浮かびます。

ただ、祈ることしか出来ない私を許してください。

ただ、あなたを想うことしか出来ないのです。

あなたの幸せを、笑顔を願い、ただ、ただ祈るだけの私を、どうか許してください。

こんなに情けないのですが、それでもあなたを愛しているのです。

お酒落ではないですが、美味しいものたくさんあります。

いつでも帰っておいで。

母



春待ち草

ちらちらと白いものが舞うこのごろです。
こちらとは、比べ物にはならないくらい、寒いのでしょうか。

お元気ですか。
こちらは、みんな、あたり前の風邪は引くけど、
基本的には元気で過ごしています。

王様席、ひとり、いなくなったテーブルは、
広く感じるだけではなくて、どことなくすっきりした感じもして、
なんだか見通しがよくなっています。

食費も電気代も、随分、減った気がします。
洗濯物も減って、干す時間が短くなった！

でも、なんだか物足りないのです。
我が家にはすっきりよりも、ゴチャゴチャのほうが似合っているのかもしれないね。
早く帰ってこれるように、毎朝、みんなで祈ります。

からだ、気をつけて。お仕事頑張ってください。
妻より

東京

ビルの谷間を駆け抜ける木枯らしに、
一人だということを責められているようです。

最後にあった日のあなたを思い出します。
いつも一緒にいた私達は、あまりに幼すぎたのでしょうか。

きらきらとした時間が過ぎようとしていても、
どうすることも出来なかったのです。

彼女を選んだあなたを、誰も攻めはできません。
腕を組んで歩く二人の背中を、見つめることしか出来なかったのです。

好きでしたとさえ、いえなかった私は、
あなたの背中から、まだ目を離せないでいます。

大人になったあなたは、今、何をしていますか。
大人になった私は、東京で一人、仕事をしています。
大人になった私達は、もう、出会わないのでしょうか。

そんなことを胸の中に秘めて、ここにいる私です。

月日は経ちましたが、向かい合いながら笑って、
あなたにお会いできるのを楽しみにしています。

告白の罫

今日のマフラー、とても素敵です。よく似合っていますね。
はじめてのあなたへの手紙です。

今日は、少し早い忘年会。
参加されることを聞いて、嬉しく思っていました。

彼女がいるという噂を耳にしたことがあります。
ですが、思い切って伝えたい言葉があります。

要領が悪くて、叱られてばかりの私でしたが、
いつも励ましの言葉をかけてくれたり、
フォローしてくれて応援してくれたり……。
とても、感謝しています。
いままで、たくさん、ありがとう。

初めて二人きりで話をしたとき、
休憩室のベンチに並んで、
ご馳走してくれたカフェオレ缶を飲んだのを、覚えていますか。
ミルクティばかりだった私……。
あの日から、好きになってしまいました。

これからも、ずっと、どうぞ、よろしくお願ひします。
今日の忘年会、楽しみです。

最後の恋

寒さに澄んだ空に、星も凍りつくようなこのごろ。
そのごは、いかがお過ごしでしょうか。

街には賑やかにネオンが煌めいているので、
きっと、街のネオンと同じく、
綺羅びやかに、のびのびと、過ごされているのでしょうかね。

あなたが私と同じ時代に生まれて、生きていることに感謝しています。
あなたと出会えたことに、ただ感謝しています。

それでも、もっとあなたを知りたいのです。
そして、私を、たくさんの私を、知ってほしいのです。
たくさん知り合って、寄り添って、生きて、生き抜いてみたいのです。

あなたが好きで、好きで、仕方のない私です。
あなたの残りの人生を、そんな私と一緒に過ごしませんか。
きっと、最後の恋だから、精一杯、愛し合えることでしょう。

銀の王子

窓の外には一面の銀世界。
まるで、澄み切った空気がピンと張り詰めているようです。

お元気ですか。
笑っていますか。
まだ、私は素直に笑えません。いろいろ、ありました。

なにから話しましょう。どこから.....。

あなたに出逢った私は、
耳を傾け、笑顔を返し、言葉を発します。
この雪のように張り詰めた心が、
しだいにほぐれて、溶けていくのです。
そして素直に、単純に、簡単な言葉であなたへ語ります。

あなたに出逢うために、今までがあったのですね。
あなたに出逢えたのは、偶然でしょうか。必然でしょうか。
それとも、これが奇跡なのでしょう。

あなたに出逢うことを祈って、ひとり、その時を待ちます。
私だけの王子様、あなたは今、どこにいらっしゃるのでしょうか。



スーパースター

街のイルミネーションが、一段と華やかに美しくなりましたね。

あなたは、今、元気なのですか？

仕事、巧くいっていますか？

プライベートは、充実していますか？

あなたを想うとき。

一方通行の道の彼方へと続く、か細い一本の光を思い浮かべます。

やはり、その先にはあなたへと続く道が続いているのでしょうか。それとも……。

そんなふうに、あなたへの想いの扉を開けた途端、

たぶん、あなたへとは辿り着けない道が、

この先もずっと、続いているのではないかという不安となって、私の躰を鋭く突き抜けていきます。

そして、一瞬にして真っ暗闇の中、ひとり取り残された私は、

この想いがあなたへと届かないであろう現実を、思い知らされるのです。

あなたのことを、もっと知りたい。

あなたの笑顔を近くで視たい。

あなたの声を、何気なく話しているだけの声を聴きたい。

こんな想いを、あなたは知っているのでしょうか。

あなたはとても人気があるから、きっと、知っているのでしょうかね。

でも、あなたを想う大勢の女達の現実は知らないのでしょうか。

女達は生まれながらにして、強さや包容力を男達に求めます。

いつしか、自分だけの王子様が現れるのだと、

この世に、同じ時代にいるのだと、疑うことも無く信じています。

きっと男達にも同じような憧れがあって、自分だけの相手がいると信じているのでしょうか。

しかし、私は現実のすべてに懲りてしまいました。

こんな歳になって、気づくことがあります。

世の中のこと、家族のこと、相手のこと、子供のこと。

すべては愛というものの上に成り立っているということ。

こんな歳になって気づきました。

そして今、余計なものは要らないと思えるようになったのです。

潔く生きていきたいのです。

子供と私と両親と、本音で語り合える友。

思いついた言葉を書き留めるもの。

生きるための僅かなお金と食料。

そして、あなたという存在だけが、必要なのです。

この想いは、ファン心理というものでしょうか。

しかし失礼ながら、あなたの容姿は私のいわゆるタイプではありません。

それに同い年のあなたが、華やかな世界にその身を置いているというだけで、
きっと派手な交友関係だったのだらうと、敬遠してしまう気持ちさえあるのです。

もちろん、自分のしてきたことは差し置いて、そのうえ棚にあげてしまっただけです。

その世界にいるからこそ、あなたを知ることができたというのに、ね。

この答えが判らない私は、愚かなのでしょうか。

それでもあなたに、逢いたいと思うのです。

あなたは今、幸せですか？

どういふものであれ、私は今、あなたを乞うているようです。

メリークリスマス！&ハッピーニューイヤー！

あなたへ書く、初めての手紙です。

あなたへの手紙 ～love letter～

<http://p.booklog.jp/book/48217>

著者：清瀬ちこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/marupyonlove/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/48217>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/48217>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.